

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 豊田和司

本号内容

1. 令和7年度定時総会 (05/10 西区民文化センター)
2. 国スポ選考会 (04/12-13 CERO)
3. 県民ハイキング① (04/13 武田山)
4. 県民ハイキング② (05/11 阿生山)
5. クライミングスクール① (04/13 三倉岳)
6. 岩稜歩きスクール① (04/20 三倉岳)
7. クライミングスクール② (05/11 三倉岳)
8. 岩稜歩きスクール② (05/18 鎌倉寺山)
9. 雲月山山焼き (04/19 雲月山)
10. 三倉岳山開き (04/20 三倉岳)
11. 山野峡山開き (04/29 山野峡)
12. 岳連短信 (寄贈御礼、5-6月の予定)

1. 定時総会報告

理事長 豊田 和司

定時総会5/10(土)15:00~16:30コジマホールディングス西区民文化センター

出席者18名 (広島山岳会・横山正雄、福山山岳会/理事/副会長・大田祐介、広島県庁山の会/理事・松井秀樹、マツダ親和会山岳部・弘中和明、広島大学山の会/理事/副会長・後藤裕司、広島修道大学山岳部/理事・新山まゆみ、広島三峰会/理事・宮本由美子、自然と文学愛好会広島/理事長・豊田和司、個人会員/理事・荻田純代、同/加登本仁、理事/会長・山田雅昭、同/副会長・村井仁、同/同・佐藤建、同・森本覚、監事・菊間秀樹、草光康則、新理事予定・中山富夫、事務局・杉本陽二)

懇親会17:00~ 横川食堂 14名 (山田、後藤、佐藤、村井、大田、森本、菊間、草光、新山、松井、中山、豊田、弘中、広島市市議会議員・亀井一夫)

5月11日(土)、コジマホールディングス西区民文化センターにおいて今年度定時総会が開催された。

出席者は各所属団体代表8名・個人会員2名・理事4名・監事2名・事務局1名・新役員予定者1名の計18名で、委任状も含めて出席者の議決権個数は190(議決権総数は212)なので、総会は十分に成立した。

1号議案の昨年度事業報告については、配布された総会資料を基に事務局ほか各部部長から説明があった。コロナ禍以前に近い事業復活があった。ただし、比婆山スカイラン、山岳SCセミナーが2023年をもって終了することになり、新イベントの実施に向けて検討が進められていることが報告された。

続けて2号議案の昨年度決算報告については村井副会長から説明を行った。このたび総会で初めて、1年間の全ての出金、入金を精査し、詳細が説明された。これまで、決算をしないと全体の状況が把握できなかったが、今後は各部の会計担当者が共通のファイルに逐一入出金を記録することで、リアルタイムに全体の財務状況が把握できるしくみの構築を目指す。連盟の財務状況は、約134万円の財産増加だったが、強化育成補助金特別会計と、インターハイ支援のためのポロシャツ特別会計を除外すると13,938円の減少だった。

3号議案の今年度事業計画については理事長から説明があった。おおまかな事業方針は登山とスポーツクライミングの両立というJMCSA(日本山岳・スポーツクライミング協会)の方針を従来通り踏襲し個別の重点項目としては、スポーツクライミングの強化/PR・安全登山の啓発/推進・県民ハイキングの継続

実施・安定した財政基盤を目指すことのほか、ひろしま「山の日」県民の集いへの参画、パラクライミングの取り組み強化も掲げられた。また、安全登山の啓発/推進においては、警察・消防との連携強化も掲げられた。事業計画の詳細については、村井副会長作成の一覧表のとおり。

4号議案の**今年度予算案**では、赤字幅（財産減少）を抑えるべく予算建てたが、依然として29万円弱の赤字が見込まれることから、今後の財務改善の方策を探るという前提で、3号議案の事業計画共々承認された。

最後に、今年度は**役員改選**の年で、理事の退任希望に伴い、監事1名の重任と2名の新理事選出が提案され、これも承認された。退任および新選出の監事・理事の方は以下の通り。（敬称略）

退任：（理事）後藤裕司、松島宏、田中勲、

重任：（監事）菊間秀樹

新任：（理事）中山富夫、清中智子

2. 国スポ広島県選手選考会報告

副会長 佐藤 建

広島県クライミング選手権大会 2025

4月12日（土）13日（日）クライムセンターCEROにて、広島県クライミング選手権大会 2025 を開催しました。ボルダー競技とリード競技の総合成績で順位を出しました。またこの大会は滋賀国スポの広島県選手選考も兼ねた大会です。

カテゴリーを小学5,6年、中学1,2年、中学3年～高校生（少年）、成年、そしてオープン参加とし、選手のみならずクライミング愛好家にも参加できる大会としました。ポスターや大会要項を中国地方のクライミング施設に郵送し広報活動にも力を入れたせいか中国5県と香川県より56名の選手に出場していただきました。

1日目はボルダー競技です。ベルトコンベアー方式の4課題で競いました。セッターは2024代表の渡部桂太選手にお願いしました。ベルトコンベアー方式でのコンペは少ないのでこのために出場する選手やオープン参加の方もおられました。

2日目はリード競技。昨年まではオンサイト1ルー

トでしたが、今年は選手にチャンスを与えようということでフラッシュの2ルートでの競技にしました。1本目を失敗しても2本目に挽回できるという思いがあり、どの選手も真剣に取り組んでいました。



総合成績の結果、成年男子は延近陸空斗選手、末弘竜斗選手、成年女子は錦織美里選手、山下真由選手、少年男子は加藤陽翔選手、梅田一真選手、少年女子は、三宅果乃選手、有村優佳選手がそれぞれ広島県の代表選手に選ばれました。8月の鳥取県で開催の中国ブロック大会に出場し、滋賀国スポの出場権（上位2県）を目指します。なお少年女子は中国ブロック5県すべてに出場権があり、中国ブロック予選なしで滋賀国スポに出場します。

中国ブロック大会、滋賀国スポに熱い声援をお願いします。

最後に、大会をさせていただいたスタッフの皆様、駐車場をお借りした府中緑ヶ丘中学校様、セッターの皆様、大会補助をしていただいた広島県スポーツ協会様。皆様にお礼申し上げます。来年も充実した大会にしていきたいと思ひます。

3. 県民ハイキング武田山報告

JAC 広島支部 近藤 道明

行程

J R 下祇園駅 10:00-10:25 登山口（憩いの森）

10:30-10:55 馬返し（休憩） 11:00

一御門跡 11:15-千畳敷 11:30-11:45 武田山（昼食）

12:30-弓場跡 12:45-13:30 下山口（憩いの森）

13:45-14:15 J R 下祇園駅

実施概要

今年度最初の第68回県民ハイキングは、広島市内近在安佐南区の銀山城跡武田山で実施した。夜来の雨で2年前であれば中止となった天候であったが、朝8時には小降りとなり集合時間の9時30分には雨は上がっていた。一般参加者1名が中止と判断して参加を見合わせたが、他の申込者は遅れもなく集合した。JR下祇園駅に到着した参加者を手分けして近在の公園に誘導し、開会式、主催者挨拶、注意事項と行程説明を行い、ストレッチ後に3班に分かれて出発した。出発時には天候は完全に回復しており、車道を避けて憩いの森に到着した頃には登山日和となっていた。

予定時間より少し早めに登山を開始し、ゆっくり時間を取って進み予定した旧跡で休憩を取り、予定どおり全員元気に山頂に到着した。途中の開けた場所で広島市内から広島湾の眺望を楽しむことができ、余裕を持った上りの行程だった。

山頂で昼食を楽しみ、豊田理事長の武田山および関連した歴史解説があり、旧跡の謂われを学んだ。全員で集合写真を撮って下山を開始、最後の旧跡弓場跡では希望者が射的を楽しんだ。急な下りはあったが、全員が注意して通過し、予定どおり無事に下山口の憩いの森に到着、休憩後に解散した。

今回は、新年度に入り間もなくの開催となったため、やや準備不足を懸念したが、まずまずの結果であったと思われる。ただ、時間的にスタッフミーティングが徹底できず、出発前に集合した参加者を公園に案内しからの対応が不十分で、やや混乱したことは反省点であった。

ヒヤリハット報告はなし。

26名が参加し、うち JAC 広島支部から8名参加。

感想

一般参加 岡野 大地

初めての参加で、みんなで山登りというのは学生時代ぶり。一人で山登りはたまにしていますが、集団で行くと、違った良さがたくさんありました。みんなで同じ場所を目指す一体感。皆で動くから迷わないこと、なにかあっても助けあえる安心感。道中の交流の楽しさ。など、一人では味わえない楽しさがありました。山頂で食べた弁当はおいしかったし、歴史の解説も面白く、下山中に弓矢で的当ても

新鮮な体験でした。

いいことはたくさんありましたが、それは皆さんの朗らかな雰囲気があってこそその良さだと思います。仕事は忙しく、機会は少ないかもしれませんが、また参加したいと思いました。

広島修道大学山岳会 岡野 光一

息子も楽しめたようでなによりでした。私のペースに合わせていただき快適な登山ができました。

毎回毎回、山にちなんだ歴史的解説、素晴らしいです。

広島修道大学山岳会 高間 和夫

4月13日の県民ハイキング武田山(411m)に参加させて頂きました。

当日朝までの天候は不安定で、降水確率70%程となっており、天気予報が気になりましたが、中止の基準が前日予報で80%以上だそうで、長い間使ってなかった雨具を試着しておきました。(体重がかなり増加しているので…)

当日朝は雨模様でしたが集合場所の下祇園駅に着く頃には雨具を使わずに済む様になっていました。

曇り空の午前中は涼しく快適で、武田山憩いの森登山口からの道は舞い落ちる桜の花びらや、まだ花の残る椿、満開を迎えるツツジなども楽しめました。

山城の跡らしく付近にたくさんある大きな岩の傍を通って着いた山頂では昼食の後、理事長の豊田さんに武田山にまつわる興味深い歴史についてお話して頂きました。

かつてこの山にあった安芸武田氏の銀山城を毛利元就が攻め滅ぼした時、逃げ延びた一族の一人が後に豊臣秀吉の側近になる安国寺恵瓊であったという話は、その歴史舞台となった眼下に広がる太田川とその周辺の街並みを目の当たりにしながら聞くと、戦国ロマンを彷彿とさせるもので、この場に参加された皆さんからも思わず感嘆の声があがりました。

私は、京都府の石清水八幡宮の男山展望台から明智光秀と羽柴秀吉の決戦場となった大山崎の町を見下ろしながら同様の気分を味わったことがあります。

山に登り、普段の生活場所を俯瞰して遠い歴史に思いをはせるのも里山登山の楽しみかもしれませんね。

清々しい山頂からの景色を堪能した頃には晴れ間が広がり、朝までの雨で濡れた落ち葉で滑らぬよう気を付けながら弓場跡を經由して、登りとは別のルートで憩いの森登山口に下山し解散となりました。

気持ちの良い汗をかいた後は近くのイオンモールのレストランに行き、ビールで喉を潤してから気分良く家路につきました。

この様な素晴らしい機会を設け、お世話して下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。



4. 県民ハイキング阿武山報告

タンネンクラブ 会長 尾道 憲二
行程

8:30JR 可部線緑井駅 スタッフ集合・受付開始～9:00――
緑井第一公園 9:10 開会式・準備運動
9:25――毘沙門堂 9:50～10:05――多宝塔 10:20――権
現山 396.8m11:05～25――

阿武山 585.9m12:35 (昼食)13:00(貴船神社・解説)13:20――林道駐車場 14:00(雨具着用)14:10――
城跡広場 14:40――宇那木神社 15:10(解散)――七軒
茶屋駅(横川方面)15:19 または 15:39

実施概要

曇り空で予報では 15:00 頃から雨となっていたから 15 時を解散時間と決めて行動に移る。

権現山で体調不良の女性 1 名をスタッフ 1 名付けて緑井に下山してもらう。

その他の参加者は元気で余裕をもって阿武山まで行けた。

寺社・神社が多く、それぞれの場所で説明を入れたので喜ばれた。

13:30 頃から小雨が降ってきて林道駐車場で雨具を装着、下山地まで小雨模様。

車 1 台をコースに配備したのが良かった。

気付いた点

体調不良の方が出たとき無理に連れて行こうとせず、スタッフを付けて早めに下山を促すこと

(これが全体の行動を速やかにして時間的に予定通りに余裕をもって対処できる)

気温は 17℃以下で涼しかったので良かったが、スタッフにはミネラル水 555ml を持たすが、使う場面はなかった

今後の提案

救急用品の準備が 2 箱で 3 班あるから、もう 1 つ用意してほしい

一般の参加者が少ない、県民の登山者がもっと関心を持てるよう宣伝してほしい。26 名参加、うちタンネンクラブ 15 名参加。

感想

タンネンクラブ 本多 雅一

少し涼しいひんやりとした石の階段を歩き、権現山土砂崩れ前に建つ毘沙門堂毘沙門天本堂横、遊歩道途中にある多宝塔から南に見た武田山の眺めは圧巻であり、前回の武田山銀山城跡とは反対に位置する今回の北方の鬼門除け毘沙門天、別名多聞天からの、この眺めは、不思議な感覚でもありました。

権現山山頂の四等三角点に触りながら、東西南北の昔からの方向確認や今の土砂崩れ等による山の変化の自動確認など、三角点の重要性の話には驚くばかりでした。

風が吹き上がってくる細い尾根を渡り、甚大な被害を出した土石流の最初小さな突起場所がある阿武山(阿生山)586mの頂上に登り、昼食時、眼下に流れる大きく蛇行した太田川を眺め、神龍神社にて、黙禱とともに史実資料などを通した山と人の話を聴き、楽しみがまた湧いてきました。

5. クライミングスクール報告①

指導部 塩田 徹

第1回 4/13(日)、山城：三倉岳 源助崩れ、人数：13名 (スタッフ含)

前日からの雨の為、講習場所を天応烏帽子岩から三倉岳に変更しました。朝はまだ降雨の為、三倉岳休憩所にて講習しました。10:30頃雨が上がったので源助崩れに移動し、受講生二人一組になり、猫の悲鳴からラッペルを講習し、モアイクラック、ラッキーネーブル下部をトップロープで登りと確保の講習をしました。

感想 谷本 雅己

4/13(日)のクライミングスクールに参加しました。私は一昨年のスクールから継続して参加していますので、三年生になります。

私、クライミングにはまっていると言っていいと思います。登れなかったルートを初めて完登した時の嬉しいこと！クライミングが初めての新入生の方々、最初は誰も怖くて大変です。何度もズリズリ落ちます。でも、ビレイしてもらってますから、大丈夫！頑張りましょう！

今回のレッスンは、雨天のため午前中三倉岳休憩所内でロープワークやビレイの基本を教わり、雨が止んだからは源助崩れに移り、ラッペルの実習とモアイク

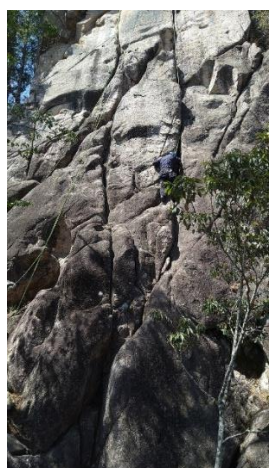
ラックルートとラッキーネーブルルートを使って、クライミングとビレイの実習が行なわれました。私は一通り操作は出来るのですが、時として手順のあと先が起き、コーチからキチンと教わって良かったです。安全は最重要ですからね、基本を再認識しました。

ラッキーネーブルルートはグレードが 5.11a、岩がオーバーハングしている所の下までは行けましたが、あそこからどうやって登るのか見当もつきませんでした。モアイクラックはグレード 5.9 ですから、そろそろ完登したいんですが…。1年目に完登する人もいますが、私は2年かかってもまだです。今回は何とかしたいと思って取り付きましたが…。最上部の頭の上から覆いかぶさっている大岩の下で両脚を大きく開いて左右の岩壁を突っ張って立ち上がり、左のクラックを右手でハンドジャムして登ろうとしましたが駄目でした。塩田先生のおっしゃるには、あそこは左手でジャミングして、右手で大岩の右側面のホールドを掴むとか。ウー、右側面にそんなホールドがあったのか！次回、再挑戦だ！こんなふうに、いつも次回の為の宿題が出ているようなもんなので、家に帰ってもずーっと思い起こし、考えているのです。これを岩登りにはまっているというのですね。

それと、人のクライミングを見ると凄く勉強になります。技術面だけでなく、その頑張り、粘りに感心させられることが多いです。私は結構あきらめが早いというかすぐに降参！してしまいがちなんですね。これからは、もう少しがんばるぞ！と決意しました。ある程度限界近くまで自分の技術、力を出してみないと上達は無いのだな、と気付いた次第です。あの人、上手になったなあと思うような方は粘ってます。

楽しいクライミングですが、一方で危険なスポーツでもあります。そのため、安全なクライミングを身につける必要があります。そのためには、知識、技術はもちろんですが、ロープを繋ぐパートナーとお互いに注意、確認し、指摘しあいながら安全を確保していくというコミュニケーションが大切だと思います。ちょっとうるさい！とか思われるのは嫌ですが、その一言で救われるということもあり得ますよね。その結び方は大丈夫？カラビナのロックはOKか？ハーネス装着はどうか？気を引き締めて取り組まなければと改め

ておもいました。このように歩みは遅いのですが、前を向いて努力していこうと思います。ホントにいいスポーツだと思います。コーチの皆様方、御指導よろしくをお願いします。



(写真提供 塩田 徹)

6. 岩稜歩きスクール報告①

指導部 森本 寛

第1回 4/20(日)、山城：三倉岳、人数：17名(スタッフ含)。4/20(日)第1回目の実技講習で三倉岳に行きました。午前中は炊事棟にて装備の説明、ロープのたたみ方を指導し、その後、3グループに分かれて「エイトノット」「フィックス通過」「ラッペル」のロープワークを指導しました。午後からは小雨でしたが、近場の岩場を利用して、フィックス通過とラッペルの実技講習をおこないました。

感想 池本 賢治

登山をしている中でも岩稜を歩くのが特に好きで、岩山を上る回数が他の人よりは多いと思っている。元々は高所恐怖症であり2m以上の高いところが怖かったが、登山回数を重ねると次第に慣れてきて恐怖心が薄らいできていた。また、登山ルートも最初は一般登山道だけにしてはいたが、物足りなくなりバリエーションルートに行く機会が増えた。

今後、安全に登山をするためにロープワークを学んだ方が良く考えていて、今回の岩稜歩きスクールを受講した。

初回の講習までに3日間、指示のあったロープの結び方を練習し、何とか結び方を習得できた上で講習に参加することができた。

講習でも最初にロープの結び方を集中して教えて頂き、結びの形を意識する事により、間違いなく確実に結ぶ事ができるようになったと思う。

しかし、懸垂降下では慎重になり過ぎた面もありぎこちなさが残った。降下時の姿勢と降下スピードがまだよくコントロールできていない。今回は雨が降った影響で、懸垂降下の実技回数が少なかったため、今後回数を重ねる事で対応できると考えている。

今後の講習では、初回に教えていただいた内容の繰り返しになるのか？毎回新しいことを習得していく必要があるのか？が分からない。もし、講習日毎のテーマや習得する内容があるのであれば、それを事前に教えて頂きたいと思う。

感想 大下 真弓

私は、3月までトレッキングスクールを受講し、もっといろんな山に登りたいと思い、4月から岩陵歩きスクールに参加することしました。第一回の岩陵歩きスクールは三倉岳でした。

8時半に集合し、炊事棟でスタッフの皆様の紹介の後、ハーネス、ヘルメットの装着から、マッシュャートレス、ラッペル、エイトノット、ロープの束ねる方法を教えていただき、3チームに分かれて、実践に備えて注意点を教えていただきました。

その1、危険箇所でのフィックロープに必要なマッシュャートレス、支点ではセルフを取り、マッシュャートレスの付け替えを学び。

その2、ラッペルは下降器を使い注意点を教えていただきました。

その3、エイトノットをハーネスに付ける練習、エイトノットが綺麗でないと、強度が落ちることを知りました。

お昼前に雨が止んだので、午後から岩場へ移動し実践することとなりました。

岩場の上までは、スタッフの方がフィックロープを張ってくださり、受講生が順番に習ったマッシュャートレスで登り、岩場からラッペルで降りる練習。

岩場は濡れて滑りそうだったが、しっかり足を置くと安定しました。ラッペルは体重をかけて身体を岩に対して90度になるとスムーズに下降できることを身体で感じることができました。

危険箇所では、安全に歩くために必要なロープワークはとっても大切だと思います。このスクールでは、確保される側だけではなく、確保する側のことも教えますと説明がありました。

確保することは、確実に安全にその場ではどうすればいいのか考え、慌てることなく、スムーズにする必要があります、なかなかハードル高いです。

まずは来月のスクールまで、今回教えていただいたことを忘れないように自主練したいと思いました。

雨の中、スタッフの皆様が岩場で待機し、丁寧に教えていただきました。ありがとうございました。来月もよろしく願い致します。



(写真提供 森本 覚)

7. クライミングスクール報告②

指導部 塩田 徹

第 2 回 5/11(日)、山城：三倉岳 見晴らし岩スラブ、人数：14名 (スタッフ含)、今回の課題は早春賦右、早春賦左、ひだりがお好き(下部割愛)、やぎ戻しの 4 ルートでした。受講生 2~3 名で班構成しトプロープクライミングの講習をしました。午後、雨予報の為、13:00 に岩場での講習を終え、上の炊事棟まで下山し、遅い昼食後、ラッペルの一時停止とバックアップをしたラッペルの講習をしました。

感想 門司 仁美

今回は、広島県大竹市の三倉岳の見晴らし岩スラブの「①早春賦の右・左、②やぎ戻し、③左がお好き(上半分)」で練習しました。

①早春賦の左では、生まれて初めてチムニーを体験しました。クライミングを始めて 3 か月の私は、「そもそもチムニーってなに??」という状態でした。

「そろそろ出てこないと！」スタッフの方の声掛けがあっても意味が分かりません。何とか割れ目から這い出して無我夢中で登りました。

②やぎ戻しでは上のほうで動けなくなり、ミンミンゼミのように岩にしがみついている固まっていたところ、K さんが近くまで上がってくださってご指南いただいたおかげで、なんとか上まで登れました。登ると視野が狭くなるのでしょうか。K さんにヒントをいただくことで先が見えました。

一番怖かったのが③左がお好き(上半分)です。足を置くところも手を持つところも見つかりません。ここでも固まっていたところを H さんに支えていただきました。

午後から雨が降り始めたので、屋根のある炊事場で「ミュールノット」と「足絡み」の練習をしました。S コーチが丁寧に解説しながら実技を見せてくださいました。見ているときは「ふんふん」と分かったつもりになりますが、いざ、自分でやってみると。。。できません。。。

頭がこんがらがるといふか、本当の意味で理解できていないのでしょうか。自宅で練習しようと心に誓いました。

ところで、これらを練習しているときは思いつきま

せんでしたが、活かせる場面が早くも訪れました。

私は「岩稜歩きスクール」にも参加しています。その中で懸垂下降を今まさに始めようとしていたら、手袋が懸垂下降用でないことを M コーチに指摘されました。

頭が真っ白になる私。

M さん「足絡み習ったじゃろ！」

そうでした……。

(思い出す私) 急いでロープを足に巻き付け、安全を確保できました。

このように講座では、すぐに役立つ技術を教えていただけます。また、一人では絶対登れない岩をスタッフの皆様の温かくかつ厳しいご指導のもと、少しずつ登れるようになっていく気がします。

まだまだ恐怖心はありますが、講座に参加できて良かったと思っています。

今後もよろしくお願いいたします。



8. 岩稜歩きスクール報告②

指導部部長 森本 覚

第 2 回 5/18(日)山域：鎌倉寺山、人数：16 名（スタッフ含）

5/18(日)第 2 回目の実技講習で鎌倉寺山に行きました。準備運動、前回の復習とセカンドビレイの説明後、3 班に分かれて入山しました。

「岩稜帯のフィックス通過」「ビレイ器で確保しながらのスラブ登り」「立木を利用したラッペル」の課題を実施しながら登りました。振れ止めをしながらのセカンドビレイ確保で全員無事「馬の背」を通過できました。

感想 小林 響子

5 月 18 日に広島市北部にある鎌倉寺山で第 2 回目のスクールが開催された。

鎌倉寺山は広島のロッククライミング発祥の地とことで岩が数多くあり、初回で習ったロープワークをより実践的に取り組むことができた。

3 班に分かれたグループでセカンドビレイ、懸垂下降、マッシュャートレスを使用した通過をシュチュエーション別にやった。個人的には今までやってきたこともシュチュエーションが変わると焦ったり、間誤付いたりしてしまう。より一層、ロープワークへの深い理解が必要だと感じた。また講師の方々が準備して下さるフィックスロープも、その張り方等時間に余裕がある時はしっかり観察したいと思う。未だ始まったばかりのスクールですが、これから高度を増してどんどんそれっぽくなっていくのかと思うと、期待が少しと上手くできるかという不安でいっぱいですが、少しでも多く吸収出来ればと思っています。

講師の皆様、スクール生の皆様、引き続きよろしくお願いたします。

感想 篠原 純也 (第 1 回、第 2 回)

登山経験はそれなりと感じていますが、クライミングの経験はほぼ皆無でスキルも当然無し。これでは近い将来チャレンジしたい本格的なバリエーションルートによる安全な登攀は無理だと思っていたところ、



(写真提供 塩田 徹)

「岩稜歩きスクール」の募集があり今回初めて岳連主催の講習会に参加させて頂くこととなりました。

さて、4月からスタートした全8回の本講習会も第2回が終了。第1回は広島県のロッククライミングの名所として知られる三倉岳で開催されましたが、生憎の雨となり午前中はキャンプ場の炊事棟を利用して様々な技術を学びました。具体的にはノット、ヒッチを中心とした基本的なロープワークから、岩稜等の危険箇所において安全を確保する為のフィックスロープの支点をマッシャーで通過する方法、また個人的には非常に重要且つクライミング技術の中でも最も強い憧れを抱いているラッペルまでと、初回から盛り沢山の内容で初心者の方にはついて行くのが精一杯でしたが、岳連スタッフの皆様が大変丁寧に教えて頂き何とか乗り切ることが出来ました。その後、お昼ごろから雨が小康状態になった為、三倉岳の中腹あたりにある岩場まで全員で登り、午前中習った技術をグループ毎に実践するという流れで進んで行きました。しかし雨で岩場が滑り易くなっていた為、安全第一の観点から当初予定されていた岩場を変更しての実践講習に。実際の登攀中にもこのような判断は大変重要なスキルであることを改めて感じさせられました。

5月の第2回は広島県におけるロッククライミング発祥の地として有名な広島市安佐北区にある鎌倉寺山で天候に恵まれた中、開催されました。何度か登ったことのある山でしたがスリング、カラビナをギアループに取り付けたハーネスを装着して登るのは初めてだったことから、とても新鮮で且つ気の引き締まる思いで講習場所となる岩場まで登ることが出来ました。前回同様数グループに分かれそれぞれ異なった岩場を使い三倉岳で教わった技術の復習、そして新たな技術としてフォロワーの確保を教えて頂き第1回以上に実践中心の内容で大変充実した講習会となりました。

まずは2回の講習会を終えましたが、率直な感想として想像していた以上にクライミングシステムの構築は複雑で、そしてこれを技術としてスムーズに活用するには何度も何度も繰り返し実践していく必要があると強く感じたところです。スムーズにシステムを構築し活用する重要性については講習の中でも強くご指導頂きますが、確かに時間が必要以上にかかるようでは実際の登攀においては遭難に繋がる可能性があります。現に講習中においてロープワークを忘れる、

セルフビレイを頻繁に忘れるなど、時間のロスが度々。

安全な登攀を実現する為に必要な技術として、正確なクライミングシステムを構築できるスキルを身につけるだけではなく、スムーズ且つスピーディーに活用する、この二つを両立させることが大変重要だということを感じました。

この二つを習得し、これまで以上に幅の広がった登山を安全に楽しめるよう3回目以降の講習会もしっかりと岳連スタッフ皆様の教えをしっかりと身につけて自身のスキルを磨いて行きたいと思っております。

最後になりましたが、いつも優しい中にも厳しく丁寧に教えて下さる岳連スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。以降も度々ご迷惑をおかけすると思いますが、引き続き宜しくお願い致します。





(写真提供 久保田 征治)

9. 雲月山山焼き報告

広島山岳会・広島県庁山の会 福永 やす子

4月19日、2005年から再開され今年で21年目、12回目の予定の山焼きに島根県境にある北広島町の雲月山(911m)で春の草花の芽吹きを促す山焼きに参加しました。当日は天気も良く、多くの参加者がありました。

今年の雲月山山焼きの午前中作業は8:00に現地集合し8:30受付。各自500円を払い班ごとにゼッケンを付けました。7か所の集落(土橋、奥原、草安、苅谷形、オ乙、大利原、南門原)に分かれボランティアが加わり、地元の方の草刈り機で5mの防火帯を作って我々がレーキで寄せて午前中の作業は終了

しました。

お昼は地元農事法人の方のご支援で炊き込みご飯とうづつきうどんが無料で振舞われました。午後から消防団も加わって、有志は15kgの水を背負い一般参加者は杉の枝を持って消化出来る態勢で班ごとに配置し、上部からの火入れを待ちました。ある程度下方に焼け広がると一面黒く灰化して行き下方からの火入れが進むと忽ち上層へと燃え上がり晴天が続いたので全面が真っ黒になる予定でしたが・・・。

山の上は風が出て来て地元の消防団も見守る中、安全の観点から火入れは中止と判断されました。終了後、オークガーデンでなんと無料でお風呂に浸かり帰宅しました。

以前は北広島町で自然保護委員研修会を開いていた関係で50余名もの参加者がいましたが、山岳連盟関係はタンネンの4~5人方や個人会員の数名の顔ぶれがありました。最近是个々での参加申し込みとなっております。生物多様な草原となるよう多くの皆さんの積極的な参加をお願いします。



10. 三倉岳山開き

事務局・普及部・高体連担当副会長 村井 仁

4月20日(日)の「三倉岳山開き」にあわせ、各種関連事業があり、山田会長と私 村井が出席しました。今にも雨が降りそうな空模様、三倉岳はガスの中でしたが、夕方まで本降りの雨となる事はありませんでした。

(1) 安全登山祭（神事）

大竹観光協会の主催により、9時から三倉岳開山記念碑前（三倉苑）で開催されました。県や市、地元関係者などが玉串をお供えし、シーズンの安全登山を祈願しました。

(2) 三倉岳県立自然公園協議会総会

9時30分から休憩所（ログハウス）内で開催されました。協議会は、県や市から、キャンプ場や休憩所などの管理を受託しています。本連盟は特別賛助会員です。前年度の事業・決算報告、新年度の事業計画案・収支予算案などが満場一致で承認されました。

(3) イベント・アトラクション

9時から休憩所の周辺で、キッチンカーによる飲食販売、地元グループによるボルダリング体験などのキッズアドベンチャー、おおたけ吹奏楽団による演奏会、大竹山の会による三倉岳登山など、多彩なイベントが開催されました。

また、休憩所には、多くの地元関係者、行政関係者が訪れ、三倉岳の今後について意見交換しました。



11. 山野峡山開き報告

県東部担当副会長 大田祐介

4月29日、山野峡県立自然公園のキャンプ場にて「山野峡山開き式」が開催されました。キャンプ場は西日本豪雨災害で大きな被害を受け、その後もコロナ禍により実に7年ぶりの開催となりました。当日は福山市長をはじめとする行政関係者も多数出席し、地元有志による山菜おこわが振る舞われ、G7広島サミットで各国首脳に提供された地元の名産「山野峡ワイン」の販売もあるなど、普段はひっそりしたキャンプ場が賑わいました。

山野峡キャンプ場は「静かで何も無い」ことが人気の秘訣であり、ソロキャンパーがバイクに荷物を満載してよく訪れている様子です。周辺には福山一



の名瀑、マイナスイオン溢れる「龍頭の滝」やパワースポット「岩屋権現」など見所も多く、小田川の清流は川遊びにも適しています。福山市内で最も高齢化が進む山野町ですが、福山の軽井沢と呼ばれる？山野峡にぜひお越しいただき、過疎のまちの活性化へご支援をお願いしたいと思います。



旧・山口県セミナーパーク)

06/22 (日) 2025 (令和 7 年) 年度 JMSCA 総会

06/28-29 (土日) 無雪期救急法講習会 (南区区民文化センター)

07/09 (水) 第 4 回運営会議

編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

6. 岳連短信

1. 寄贈御礼

- (05/21) 三原山の会『筆影』No. 543 (6月号)
- (06/01) 福山山岳会『会報』6月号
- (05/16) 広島やまびこ会『やまびこ』821 (5月号)
- (06/01) 広島山稜会『峠通信』791 (5月号)

2. 5月～6月の行事予定 (実施済も含む)

- 05/11 (日) 県民ハイキング・タンネンクラブ (阿武山)
- 05/27 (火) 県民ハイキング調整会議
- 05/31-06/01 (土日) ひろしま「山の日」県民の集い (三倉岳)
- 06/08 (日) 県民ハイキング・三峰会 (阿多田島)
- 06/11 (水) 第 3 回運営会議
- 06/21 (土) スポーツクライミング中国地区ユース選手権 2025 山口大会 (YMfg 維新セミナーパーク =